

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選】政治・経済	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる力を身に付ける ・ 現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想し、議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 ・ 国民主権を担う公民として、日本および国際社会において国家および社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。 ・ よりよい社会の実現のために諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 				
使用教材	【教科書】政治・経済（東京書籍） 【副教材】要点マスター政治・経済 整理と演習（東京書籍）				
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	合意形成や社会参画に向け、必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題について考察し、社会の在り方などについて議論し公正に判断したり、表現したりしている。	よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
評価方法	目標をふまえ、すべての観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」について日々の学習活動を基本として評価を行います。単元ごとに授業内容に対する理解度を確認しながら意見交流等を行い、意欲的に学習に取り組んでいるか、興味関心を持つことが出来ているかを評価します。また定期考査、小テストの点数やレポート、授業ノート等の提出物の状況などもふまえて総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	第1章 現代日本の政治 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民主政治の基本原則 ・ 日本国憲法の基本原則 ・ 日本の政治機構 ・ 現代政治の特質と課題 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 政治の役割や、政府と国民との関係性、権力分立の重要性について理解します。 ・ 大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解し基本的人権と自分の生活との関係と平和主義の下、今後の日本の安全保障はどうあるべきか考察します。 ・ 日本の政治の仕組みと国会、内閣、裁判所の権限や運営について理解し、課題をどのように解決すべきかを考察します。 		
2 学期	第2章 現代日本の経済 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の資本主義経済 ・ 現代経済のしくみ ・ 日本経済の発展と現状 ・ 福祉社会と日本経済の課題 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解します。 ・ 家計および企業の経済活動や、各経済主体の相互関係について理解します。 ・ 日本の財政の課題を抱える課題や、持続可能な財政および租税のあり方について考察します。 		
3 学期	現代の国際政治と国際経済 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際政治のしくみ ・ 複雑化する国際政治と日本 ・ 国民経済と国際経済 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会の秩序維持の要因や、国内法と比較した国際法の特徴について理解します。 ・ 経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解し、現在の世界経済はどのような課題を抱えているか考察します。 		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちを取り巻く様々な社会問題に興味関心を持ち日々の学習に意欲的に取り組んでください。 ・ 与えられた課題は、期日を守り必ず提出してください。 				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選択】理科・化学基礎	単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	1. 「化学」は、物質を調べ、つくり出し、利用するための基礎となる学問であること、さらに化学が人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。 3. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解するとともに日常生活や社会と関連付けて考えることができるようになる。 4. 上記1～3の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。						
使用教材	【教科書】新編 化学基礎 (東京書籍) 【副教材】ニューアチーブ 化学基礎 (東京書籍)						
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の探究をするために物質の構造・状態・化学結合など化学的な基礎知識を身に付けている。 ・さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験の技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と具体的物質や社会との関連を見だし総合的に考察し、それらを必要に応じて活用して的確に表現できている。 ・実験の結果から、科学的に考察し表現することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質の性質に関心を持ち、原子の構造や化学的性質について意欲的に学習に取り組むことができている。 ・知識を活かして、日常生活における化学的な現象について意欲的に探究することができている。 				
評価方法	目標を踏まえ、定期考査などの各種テストや日々の授業への取り組み、また実験や調べ学習に対する取り組む姿勢、提出物の状況や小テストへの取り組み等を総合的に判断して評価する。						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	第1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 第2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表			<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活は、化学に密接に関連していること知る。 ・身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 ・物質を構成する基本粒子について学ぶ。 			
2 学期	第2編 物質の構成 2章 化学結合 第3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 2章 酸と塩基			<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるすべての物質が原子、分子、イオンという粒子からなることを理解し、イオン結合や共有結合について学ぶ。 ・原子・分子を集団として扱う物質の考え方について学ぶ。 ・身近なところで多く利用されている酸と塩基について、中和反応やその量的関係について学ぶ。 			
3 学期	第3編 物質の変化 3章 酸化還元反応 化学が拓く世界			<ul style="list-style-type: none"> ・物質の燃焼や、金属の溶解などの化学反応は、電子の移動を伴う酸化還元反応である。酸化還元反応を電子の授受に基づいて理解し、電池や電気分解についても学ぶ。 ・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に対しても意欲的に取り組み、なぜ現象が起こるかを考えることが大切です。実験考察や授業を振り返りまとめることで化学について探究しましょう。 						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選択】理科・生物基礎	単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	1. 生物や生命の多様性について学習し、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 遺伝子、健康、環境など私たちの生活に身近な内容を学習することで、生物や生命に対する興味・関心を高める。 3. 生物や生命現象の中から課題を見出し、観察、実験を通して探究する姿勢を身につける。						
使用教材	【教科書】新編 生物基礎 (東京書籍) 【副教材】ニューアチーブ 生物基礎 (東京書籍)						
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	・生物のからだの特徴について観察や実験などを通して理解している。 ・さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験を行うことができている。	・生物や生物現象、また生物をとりまく環境について自らの考えを的確に表現することができる。 ・観察や実験を行い、それらを科学的に探究することができる。	・生物や生物現象について興味を持つことができている。 ・学習内容が自分の体や生活・社会に関わる身近な問題であると理解し、新聞やテレビ報道の内容に関心を持つことができている。				
評価方法	目標を踏まえ、定期考査などの各種テストや日々の授業への取り組み、また実験や調べ学習に対する取り組み姿勢、提出物の状況や小テストへの取り組み等を総合的に判断して評価する。						
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い					
1 学期	1 編 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生命活動とエネルギー 2 編 遺伝子とそのはたらき 1. 生物と遺伝子 2. 遺伝情報の分配	・生物は多様でありながら共通性があることを知り、細胞について学ぶ。 ・生命活動に必要なエネルギーは、呼吸や光合成から得ていることを理解し、細胞のはたらきについて学ぶ。 ・DNAについて学ぶ。 ・細胞分裂時の遺伝子の配分について学ぶ。					
	2 編 遺伝子とそのはたらき 3. 遺伝情報とタンパク質の合成 3 編 生物の体内環境の維持 1. 体内環境の維持 2. 体内環境を保つしくみ 3. 体内環境を守るしくみ	・体内でどのようにタンパク質が合成されているかを学ぶ。 ・心臓、肝臓、腎臓のはたらきによる体内環境の維持について学ぶ。 ・自律神経やホルモンの調節作用と体内環境の維持の関係について学ぶ。					
3 学期	4 編 生物の多様性と生態系 1. 植生の多様性と遷移 2. バイオームとその分布 3. 生態とその保全 生物が拓く世界	・生態系における植物の役割について学ぶ。 ・地球規模での植物の分布について学ぶ。 ・エネルギーと物質の循環、自然界のバランスについて学ぶ。 ・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。					
学習上の留意点	実験、観察には積極的に取り組みましょう。レポートなどの提出期限は守りましょう。						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選択】理科・物理基礎	単 位 数	2	単位	履修年次 3 年次
目 標	<p>工業系科目の土台として基礎基本的な知識、技能を高める。また、日常生活や社会との関連を図りながら、力学や熱力学、電気などへの関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行う。さらに、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理学と日常生活や社会との関連についての重要性に気づき、物理学の法則と実際の運動との関係性を判断する力を身につける。 ・物理学的に探究する能力と態度を育成し、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・身近な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、主体的に解決する方法を見出す能力と態度を身につける。 ・身近に見られる物理現象の背後に原理・法則が存在することを理解し、それらを日常生活や社会の中で活用する能力と態度を身につける。 				
使用教材	<p>【教科書】新編 物理基礎 (数研出版) 【副教材】改訂 プログレス 物理基礎</p>				
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・科学的視点からの実験方法や実験結果の考察する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的に関わり、科学的に探究しようとしている 		
評価方法	<p>「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については日々の授業態度や観察、実験などの取り組み・提出物の状況を中心に、「知識・技能」については、基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを5回の定期考査やノート・提出物等を中心に、それぞれ総合的に評価します。</p>				
学 期	学習内容		学習のねらい		
1 学 期	<p>○力と運動</p> <p>1. 物体の運動 速さと速度 / 速度の合成・分解と相対速度 / 加速度と等加速度運動 /</p> <p>2. 落下運動 落下運動 / 放物運動</p> <p>3. 力のつり合い 力 / 力の合成・分解と力のつり合い</p> <p>4. 運動の法則 運動の3法則 / 抵抗力を受ける運動</p> <p>○エネルギー</p> <p>1. 力学的エネルギー 力がする仕事 / 運動エネルギーと位置エネルギー / 力学的エネルギー保存の法則</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・物理学が拓く世界について知る。 ・速度、加速度といった運動を表現する諸量の定義を理解し、運動を表現、分析できるようになる。 ・落下運動などの日常に起こる物体の運動を通して、運動状態と力の関係を知る。 ・力についての理解を深め、合成・分解の手法を用いて、運動の解析に適用できる。 ・運動の3法則を理解し、運動方程式を用いて、運動の諸量や力を求めることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギー、仕事、仕事率といった諸量の定義を理解し、エネルギーと仕事の関係を理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則が成り立つ状況を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。 		

<p>2 学 期</p> <p>2. 熱とエネルギー 熱と温度 / 熱容量と比熱 / 物体の熱膨張 / エネルギーの変換と保存 / 不可逆変化と熱力学第二法則 / 気体の圧力</p> <p>○波動</p> <p>1. 波の性質 波とその要素 / 横波と縦波 / 波の強さ / 波の重ね合わせ / 波の反射</p> <p>2. 音波 音波の性質 / 弦の振動 / 気柱の振動</p> <p>3 学 期</p> <p>○電気</p> <p>1. 静電気と電流 静電気 / 電流と抵抗 / 電気エネルギー</p> <p>2. 電流と磁場 磁場 / モーターと発電機 / 交流と電磁波</p> <p>3. エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料 / 原子力エネルギー</p> <p>○物理学が拓く社会</p>	<p>・温度や熱に関わる諸量の定義を理解し、熱現象の法則性について知る。</p> <p>・内部エネルギーと熱力学第1法則について理解する。</p> <p>・波の要素や波特有の現象について理解し、縦波と横波を、日常の現象にあてはめて説明できる。</p> <p>・波動現象に共通する性質と法則性について理解し、応用できる能力をつける。</p> <p>・音に関する諸現象を知り、法則化し、応用できる能力をつける。</p> <p>・気柱や弦の振動の規則性を用いて、波の諸量を計算できる。</p> <p>・電荷や帯電、電流といった電気現象を、原子の構造を通して理解する。</p> <p>・電流や電気エネルギーにかかわる基本法則や回路の基礎を理解し、諸量を計算できる。</p> <p>・電場や磁場の定義や電磁誘導の現象について理解し、交流の発生とモーターや発電機への応用について知る。</p> <p>・化石燃料や原子力のエネルギー利用における基礎を理解し、成果と課題を正しく認識する。</p> <p>・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。</p>	<p>・温度や熱に関わる諸量の定義を理解し、熱現象の法則性について知る。</p> <p>・内部エネルギーと熱力学第1法則について理解する。</p> <p>・波の要素や波特有の現象について理解し、縦波と横波を、日常の現象にあてはめて説明できる。</p> <p>・波動現象に共通する性質と法則性について理解し、応用できる能力をつける。</p> <p>・音に関する諸現象を知り、法則化し、応用できる能力をつける。</p> <p>・気柱や弦の振動の規則性を用いて、波の諸量を計算できる。</p> <p>・電荷や帯電、電流といった電気現象を、原子の構造を通して理解する。</p> <p>・電流や電気エネルギーにかかわる基本法則や回路の基礎を理解し、諸量を計算できる。</p> <p>・電場や磁場の定義や電磁誘導の現象について理解し、交流の発生とモーターや発電機への応用について知る。</p> <p>・化石燃料や原子力のエネルギー利用における基礎を理解し、成果と課題を正しく認識する。</p> <p>・これまで自然の法則を明らかにしてきた過程を知り、これからの科学や文明が発展するためには観察や実験、測定、理論の構築が重要である事を理解する。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>・教科書とプリントを中心にした講義形式で行います。</p> <p>・物理を身近に感じ、理解を促すためになるべく多くの演示実験を取り入れます。</p> <p>・積極的に授業に取り組む態度、授業プリントをきちんと整備することが大切です。</p>	

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（機械科）・原動機	単位数	2 単位	履修学年	3 年	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーについて、歴史、現状、将来の問題点などについて理解する。 ・流体の基礎、流体機械の種類や機構を理解する。 					
使用教材	<p>【教科書】原動機（実教出版）</p> <p>【副教材】2009年度版 工業高校機械科就職問題（一ツ橋書店）</p>					
評価の観点・評価規準	<p>「知識・技能」</p> <p>原動機に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を表現できる。</p>	<p>「思考・判断・表現」</p> <p>原動機に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。</p>	<p>「主体的に取り組む態度」</p> <p>原動機に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。</p>			
評価方法	<p>目標を踏まえ、原動機に対する「主体的に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。</p>					
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い				
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーの利用の歴史 <ul style="list-style-type: none"> (1) 身近なエネルギーの利用 (2) 熱エネルギーの利用 ・こんにちのエネルギーと動力 <ul style="list-style-type: none"> (1) エネルギーの変換 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な道具や機械をつくり、人力、畜力、風力、水力などの身近なエネルギーの利用について学ぶ。 ・熱そのものの利用と、光源としての利用であり、熱エネルギーを動力に変換する熱機関について学ぶ。 ・自然界にあるエネルギーと、動力への変換について学ぶ。 				
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・流体機械の基礎 <ul style="list-style-type: none"> (1) 流体の基本的性質 (2) 圧力 (3) 管路の流れ (4) 流体のエネルギー <ul style="list-style-type: none"> ・ベルヌーイの定理 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率よく流体機械を設計するために、流体の基本的な性質を学ぶ。 ・流体がもつ機械的エネルギーと内部的エネルギーの関係について学び、エネルギーの保存則についても理解する。 				
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・内燃機関のあらまし <ul style="list-style-type: none"> (1) 内燃機関の分類と利用 ・熱機関の基礎 <ul style="list-style-type: none"> (1) 温度と熱量 (2) 熱エネルギーの仕事 	<ul style="list-style-type: none"> ・流体の性質について、それぞれの特性や特徴、流体機器について学習します。 ・内燃機関について、基礎となる熱力学を学習します。 ・熱力学を活かした内燃機関のそれぞれの特性や特徴を学習します。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原動機は、動力についての学習であり、機械科の基礎・基本科目のひとつです。関心・意欲を持って取り組んでください。 ・流体や熱力学の学習では、いろいろな場面で計算力や読解力が必要となります。授業では問題集を用いて、それらの基礎についても学習します。 					

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（ロボットコース）・機械工作	単位数	2	単位	履修学年	3	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・工業材料の性質について理解する。 ・工業材料の加工方法について理解する。 ・合理的な生産方法を企画し、実際に活用できる能力と態度を身につける。 						
使用教材	<p>【教科書】 機械工作 1（実教出版） 機械工作 2（実教出版）</p> <p>【副教材】 自作教材（プリント）</p> <p>【その他】 タブレット</p>						
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度				
	機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。	機械工作に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。	機械工作に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。				
評価方法	到達目標を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題または小テストまたは単元テストまたは定期テストなどを中心に評価します。「主体的に取り組む態度」は、粘り強く理解しようと自分なりに工夫して取り組む姿勢を評価します						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・機械工業の歩み ・機械材料の性質 ・鋳造 ・塑性加工 			<ul style="list-style-type: none"> ・機械工業の歴史を学びます。 ・機械材料の性質および種類について学習します。 ・鋳造について学習します。 ・塑性加工について学習します。 			
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・溶接 ・表面処理 ・切削加工 ・砥粒加工と特殊加工 			<ul style="list-style-type: none"> ・溶接について学習します。 ・めっきやコーティングといった材料の表面処理について学習します。 ・旋盤やフライス盤といった切削加工について学習します。 ・砥石車を使った加工やレーザなどを使った特殊な加工方法について学習します。 			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・生産の計画と管理 			<ul style="list-style-type: none"> ・生産方法や生産数などといった角度より必要となる工作方法や工作機械について、経済的で合理的な計画を考え、技術者としての態度を身につけます。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復習をしっかりとし、日々の授業を大切にしてください。 ・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。 						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（電気工学コース）・電気回路	単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ・工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 		
使用教材	<p>【教科書】電気回路2（実教出版）</p> <p>【副教材】電気回路1・2演習ノート（実教出版）</p> <p>【その他】タブレット</p>		
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>さまざまな電気量について、その相互の関係を含めて十分に理解し、電気現象と電気量について関係づけながら説明することができる。現代社会における電気の意義や役割を理解している。</p>	<p>さまざまな電気量を式の変形や計算によって処理するための基礎的な知識や技術を適切に活用できる。</p> <p>さまざまな電気現象について深く考えている。</p>	<p>電気現象に興味や関心を持ち、意欲的にその原理を理解しようとしている。</p> <p>さまざまな電気量の計算を積極的にかつ正確に行おうとしている。</p> <p>身近な事象に対しても探求しようとする態度が備わっている。</p>
評価方法	<p>到達目標を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題または小テストまたは単元テストまたは定期テストなどを中心に評価します。「主体的に取り組む態度」は、粘り強く理解しようと自分なりに工夫して取り組む姿勢を評価します。</p>		
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	
1 学期	<p>第7章 三相交流</p> <p>1. 三相交流の基礎</p> <p>2. 三相交流回路</p> <p>3. 三相電力</p> <p>4. 回転磁界</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三相交流について、その発生、表し方を理解させる。 ・Y-Y回路・Δ-Δ回路における電圧、電流の計算ができるようにさせ、Δ-Y回路・Y-Δ回路を理解させる。 ・三相交流の表し方、Y結線負荷およびΔ結線負荷の三相電力、三相電力の測定について理解させる。 ・回転磁界の発生と三相交流による回転磁界、二相交流による回転磁界について理解させる。 	
2 学期	<p>第8章 電気計測</p> <p>1. 測定量の取り扱い</p> <p>2. 電気計測の基礎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際単位系、標準器、誤差、有効数字などの取り扱いおよび、測定量、計器姿勢などの記号、精度階級などについて理解させる。 ・永久磁石可動コイル形計器、可動鉄片形計器、電流計形計器、デジタル計器の動作原理及び特徴などについて理解させる。 	
3 学期	<p>3. 基礎量の測定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直接測定と間接測定、偏位法と零位法の意味について理解させる。 ・クランプメータ・電子電圧計・電力計・電力量計・周波数計・力率計・オシロスコープなどの原理を理解させ、正しく取り扱うことができるようにする。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・2年での電気回路が基礎となり、応用として学んでいくので、復習を怠ることがないようにしてください。 ・数学の知識が必要です。数学を苦手としている場合は、数学の復習をしながら学習を進める必要があります。 		

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業(建築デザイン科)・デザイン史	単位数	2 単位	履修学年	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間による造形の始まり・意義を知る。 ・産業革命以降に生まれた「デザイン」の概念を理解する。 ・これからのデザインやものづくりの基本理念を考え、創造する力を養う。 				
使用教材	【教科書】 デザイン史(東京電機大学) 【副教材】 自主教材				
評価の観点・評価規準	知識・技能 古代・中世・近現代デザイン造形の基本的な事柄を研究する。歴史的な事象と関連付けながら理解し、その知識を身につける。	思考・判断・表現 近現代デザイン史に至る造形の歴史から課題を見いだす。世界史的視野に立って多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえて創造する。古代・中世・近現代デザイン史の歴史についての諸資料を活用する。歴史的な事象を追究し、その過程や結果を応用する。	主体的に学習に取り組む態度 デザイン・造形の歴史に共感し課題意識を持つ。社会における創造的な活動・発展の過程を学習する。		
評価方法	目標を踏まえ、デザイン史に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」、「知識・理解」、「技能・表現」については提出物と定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	造形の始まり 日本 原始～古代 西洋 原始～古代		<ul style="list-style-type: none"> ・人類の造形の始まりとその意義を理解する。 ・仏教の影響を受けた古代文化の特徴とその造形の違いを理解し、工芸品や建築などを通して、華やかな貴族文化が生んだデザインの特徴を知る。 ・西洋の伝統的な歴史と風土とともに、造形の交流、発展、移り変わりについて、工芸品や建築などを参考に学習する。 		
2 学期	日本 中世 ・平安～室町時代(文化と造形の特徴) 近世 ・安土、桃山～江戸時代(文化と造形の特徴) ・明治、大正時代(文化と造形の特徴) 西洋 近代 ・近代デザインのはじまり アーツ・アンド・クラフツ運動、 アール・ヌーヴォー等のデザイン運動 ・近代デザインの成立と展開 バウハウス、アール・デコ等		<ul style="list-style-type: none"> ・日本独自の文化を形成していった中世文化について理解する。 ・貴族文化から武士や庶民文化へと変化していった造形の特徴を読み取る。 ・西洋文化の影響を受けながら、鎖国による日本独自の上方、江戸の庶民文化を生み出した造形の特徴を知る。 ・世界に大きな影響を与えた西洋における近代デザイン運動の流れを知る。 ・イギリス産業革命により近代のデザイン運動がはじまる過程をアーツ・アンド・クラフツ運動を中心に理解する。 ・第一次大戦後にドイツで設立されバウハウスや、近代美術の運動を絡めながら、デザインが社会的に認められ展開する過程を理解する。 		
3 学期	現代 ・世界のデザインの潮流と我が国のデザイン		<ul style="list-style-type: none"> ・環境や国際交流、人権に目を向けたデザインが必要となっていくことを知る。 		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。 ・予習・復習をしっかりとし、日々の授業を大切にしてください。 				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業(生物資源科)・農業経営	単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産や組織運営などにかかわるマネジメントなどの基礎的な内容を理解する。 ・ どう販売するかといったマーケティングやお金の出入りを把握する会計について理解する。 ・ 自分の農業への考え方や取り組み方で、どんな経営をしていくかについて考える態度と能力を養う。 		
使用教材	【教科書】農業経営(実教出版)		
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営について体系的、系統的に理解している。 ・ 農業におけるマーケティング戦略の手法を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営に関する課題を発見し、合理的かつ創造的な解決を目指した考えを持っている。 ・ 経営に関する情報収集を行い、経営改善に向けて、自分の考えを表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習したことを、農業の振興や社会貢献に活かそうとする態度がみられる。 ・ 平素の学習状況において努力し、積極的に取り組んでいる。
評価方法	<p>目標を踏まえ、農業経営に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現・」「知識・技能」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。</p>		
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	
1 学期	第1章 農業の動向と農業経営 日本と世界の農業 農業経営の動向 食料消費の動向と社会経済環境 食料・農業・農村政策と関係法規 第2章 農業のマネジメント 農業マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本と世界における農業の現状を知り、日本農業の実態と特徴について理解する。 ・ 家族経営の特徴を知り、企業経営との違いを理解する。 ・ 日本も含めた世界における食料の供給について、自分の考えを表現する。 ・ 農業経営をとりまく環境に、どう対応すべきかについて、自分の考えを表現する。 	
2 学期	第2章 農業のマネジメント 生産のマネジメント 組織のマネジメント 会計によるマネジメント リスクのマネジメント 第3章 農業のマーケティング マーケティング戦略 農産物のブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営の多角化について知り、経営規模を拡大する利点と方法について習熟する。 ・ 集团的取り組み、農業経営の法人化について理解する。 ・ 農業経営における会計と簿記の重要性とリスク管理について理解する。 ・ 農業におけるマーケティング戦略の手法、農産物のブランド化の手法を習得する。 	
3 学期	第4章 農業経営のマーケティング活動 市場調査と環境分析 農業経営の設計と診断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場調査・環境分析のポイントと手順について理解する。 ・ 農業経営設計の手法を習得する。 ・ 農業経営診断方法を理解する。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に教科書の内容に沿って授業を進めます。必要に応じてプリント活用した授業を行います。 ・ 課題やレポートの提出は提出期限に遅れないように注意してください。 		

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業 ・ ビジネス基礎	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として、 ①実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ②ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③上記の内容をふまえ、必要な基礎的な資質・能力を身につけることを目指す。				
使用教材	【教科書】 ビジネス基礎（実教出版） 【副教材】 検定問題集				
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決している。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して、自らビジネスについて学ぶ態度及び当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、責任をもって取り組もうとしている。		
評価方法	（知識・技能）・（思考・判断・表現）定期考査を元にして行う。 （主体的に学習に取り組む態度）授業ノート、ワークシート、日々の授業態度を元にして行う。 具体的には日々の授業の取組態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価する。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	商業の学習とビジネス ビジネスとコミュニケーション コミュニケーション・ビジネスマナー 情報の入手と活用		・ 商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解する。 ・ ビジネスにおける信頼関係の意義と重要性を学ぶ。 ・ ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。 ・ 企業活動における情報の重要性について理解する。		
2 学期	経済と流通の基礎 さまざまなビジネス 企業活動の基礎 マーケティングの重要性・資金調達 財務諸表の役割・企業活動と税・雇用		・ 経済の仕組みと流通の必要性について理解する。 ・ ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。 ・ 企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。		
3 学期	ビジネスと売買取引 売買取引の手順・代金決済 ビジネス計算 ビジネス計算の意義と応用 身近な地域のビジネス		・ 売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学ぶ。 ・ 契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。 ビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。 ・ さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。		
学習上の留意点	・ 商業の学習はビジネスの学習であり、このビジネス基礎はビジネスの全体像を学ぶ科目です。 そのため、卒業後の進路もふまえてビジネス計算やワープロの基礎についても学習します。 ・ 基礎的な知識や技術、心構えを身につけ、進路を考えるうえで、この学習を役立ててください。 ・ 授業の進捗状況で学習内容が入れ替わるなどの変更もあります。				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業・財務会計	単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	1. 会計における基本的考え方や処理法を習得させ、企業の実態を反映する財務諸表についての理解を深める。 2. 財務諸表から得られる情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。		
使用教材	【教科書】新財務会計 I (実教出版) 【副教材】検定対応問題集を予定		
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を養う。	主体的に学習に取り組む態度を指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	目標を踏まえ、日々の授業態度等を中心に評価を行い、定期考査を中心に評価を行う。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査、小テスト等を総合的に判断し評価する。		
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	
1 学期	第1編 財務会計の基礎 第2編 貸借対照表 第3編 損益計算書	<ul style="list-style-type: none"> ・企業会計制と会計法規を理解する。 ・資産、負債、純資産のそれぞれの分類と計算方法を理解する ・収益、費用のそれぞれの分類と計算方法を理解する。 	
2 学期	第3編 損益計算書 第4編 その他の会計処理 第5編 財務諸表の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・報告式の貸借対照表と損益計算書の作成を理解する。 ・その他の財務諸表を理解する。 ・役務収益、役務原価を理解する。 ・外貨建取引、税効果会計を理解する。 ・財務諸表分析に必要な計算方法を習得する。 	
3 学期	発展編 連結財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・連結財務諸表のあらましについて理解する。 ・連結財務諸表の作成を理解する。 	
学習上の留意点	・学習成果として日本商工会議所主催簿記検定2級および全国商業高等学校主催簿記検定1級(会計の部)の資格取得を目標としているので、その対策も行う予定である。		

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商品開発と流通	単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
使用教材	商品開発と流通 (実教出版)		
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	(知識・理解) 日々の授業や定期考査を中心に評価を行う。 (思考・判断・表現) 提出物の状況、小テスト等を総合的に判断し評価する。 (主体的に学習に取り組む態度) 授業態度や小テスト等を総合的に判断し評価する。		
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	
1 学期	1 章 商品開発と流通の概要 2 章 商品の企画 1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり	『商品開発と流通』の概要を理解する。 ・商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。 ・商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。 ・商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。	
2 学期	3 章 事業計画の立案 1 商品仕様と詳細設計 2 プロトタイプ 3 商品とデザイン 4 章 商品の開発	・商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。 ・プロトタイプの種類と目的について理解する。 ・プロトタイプを用いたテスト及び評価により、課題を書きらかにすることを理解する。 ・コンピュータを用いて、ポスターのデザインを行う。 ・ブランドについて、機能、構成要素等を理解する	
3 学期	5 章 商品の販売 1 販売員活動 2 セールスプロモーション 6 章 商品と流通に関わる新たな展開 1 商品開発の新たな展開 2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通	・セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類する。 ・流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。 ・感覚を活かしたプロモーション活動等を、企業における事例と関連付けて考察する	
学習上の留意点	・授業に集中し、わからないところをわからないままにせず、ICT 機器等を上手く用いて理解を深めて下さい。 ・欠席や遅刻をしないように心がけてください。 ・一つ一つの課題を期限厳守で提出してください。		

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・こころとからだの理解		単位数	6 単位	履修年次	3 年
目 標	・自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を身につけ、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。					
使用教材	【副教材】こころとからだの理解 (実教出版)					
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	・こころとからだの基礎的な知識を理解し、生活支援を行う上で利用者の生活行動についての理解ができる。	・こころとからだの基礎的な知識を理解し、利用者のこころをふまえた介護の考えを持つことができる。 ・こころとからだの理解をふまえた生活支援を行う判断ができる。 ・生活支援の項目がなぜ必要なのかを説明することができる。	・介護に必要とされる、こころとからだの基礎的な知識について関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	発達と老化の理解 ・人間の成長と発達 認知症の理解 ・認知症をとりまく状況 障害の理解 ・障害の基礎的理解 ・生活機能障害の理解		・人間の成長と発達について学びます。 ・認知症の中核症状・周辺症状について学びます。 ・障害について、関係法規・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方について学びます。			
2 学期	発達と老化の理解 ・老年期の理解と日常生活 認知症の理解 ・認知症の基礎的理解 ・認知症に伴う心身の変化と日常生活 障害の理解 ・障害に伴う心身の変化と日常生活		・法律から老年期の定義、課題を学び、高齢者の生活を理解します。 ・認知症が及ぼす心理的影響や特徴について学びます。 ・各種障害の種類と原因等、医学的な基礎知識を学びます。			
3 学期	発達と老化の理解 ・高齢者と健康 認知症の理解 ・認知症と地域サポート 障害の理解 ・障害と地域生活支援		・生活習慣病・高齢者に多い病気について学びます。 ・認知症に対しての地域サポートについて学びます。 ・各障害についての日常生活での介助や地域での支援について			

		て学びます。
学習上の 留意点	・国家試験では、「発達と老化の理解」、「認知症の理解」、「障害者の理解」と3科目に分かれ、問題数も多くなります。1項目ずつしっかりと勉強して学んでください。	

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(生活福祉コース)・福祉情報	単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	<p>・ 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>・ 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用した福祉情報の処理ができる。</p>						
使用教材	【副教材】福祉情報活用						
評価の観点・評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	福祉における情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。福祉情報に関する基礎知識ならびにコンピュータのハードウェア、ソフトウェアやアプリケーションソフトウェアの活用に関する基礎的な知識を身につけている。	情報を福祉に活用するために、目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報を活用しやすい形に加工する工夫を行うとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを用いた情報の整理や加工、情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信などの基礎的な技能を身につけ、福祉情報の活用ができる。	福祉における情報の活用に関心を持ち、福祉の諸活動において情報を主体的に活用しようとする。福祉情報の収集、整理・加工、伝達に情報技術を活用するための知識・技術を積極的に身につけようとしている。				
評価方法	目標を踏まえ、福祉情報に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技術」および「思考・判断・表現」は、定期考査または小テスト、調べ学習や課題の内容を中心に評価を行います。						
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い					
1 学期	文書ソフト、表計算ソフトの活用	<p>・ 文書ソフトや表計算ソフトの特徴や使い方を実践的かつ能動的に学びます。</p> <p>・ 福祉分野に関連する諸課題に対する問題解決能力を養います。</p>					
2 学期	プレゼンテーションソフト、動画編集ソフトの活用	<p>・ プレゼンテーションソフトおよび動画編集ソフトの特徴や使い方を実践的かつ能動的に学びます。</p> <p>・ 福祉分野に関連する諸課題に対する問題解決能力を養います。</p>					
3 学期							
学習上の留意点	<p>・ 正確かつスピーディーにタイピングできることが基本となります。授業外でも積極的にタイピング練習をしましょう。</p> <p>・ 2年次に引き続き、ビジネス文書実務検定の上の級を受験することも可能ですが、授業内では対策はしません。</p>						

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	保健体育・スポーツⅡ	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の特性について理解し、課題の解決を目指して、計画的に運動することができる。 ・高度な技能と審判法を習得する。 ・指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。 				
使用教材	<p>【教科書】現代高等保健体育 改訂版(大修館)</p> <p>【副教材】最新スポーツルール(大修館)・現代高等保健体育ノート(大修館)</p>				
評価の観点・評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>各種目のルールや特性、基本技術を理解し、運動技能の構造と運動の学び方、記録を高めるための知識を身に付けている。自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身につけている。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の方法を考え、工夫している。生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間と考えたことを他者に伝える力を身につけている。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。</p>		
評価方法	<p>授業への取り組み方を「学びに向かう力・人間性等」、学習内容を高めるための工夫を「思考力・判断力・表現力」、運動の実技試験や授業中での技術発揮(運動)の様子を「知識・技能」「表現力」として評価をし、それらを総合的に評価します。</p>				
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			
1 学期	<p>球技</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バスケットボール ○ハンドボール ○サッカー ○ラグビー <p>体育理論</p>	<p>球技の特性について理解し、課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得します。</p> <p>指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。</p>			
2 学期	<p>球技</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バレーボール ○テニス ○野球 ○ゴルフ <p>体育理論</p>	<p>球技の特性について理解し、課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得します。</p> <p>指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。</p>			
3 学期	<p>球技</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ソフトボール ○卓球 ○バドミントン <p>体育理論</p>	<p>球技の特性について理解し、課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得します。</p> <p>指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。</p>			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・体操服等の準備を忘れずにしてください(見学时も基本的には同様です)。 ・活動場所(体育館、グラウンド、武道場等)への集合を、時間厳守で行ってください。 ・授業時の怪我防止(安全確保)のため、授業でのルールと指示をきちんと守るようにしてください。 ・受講生の状況に応じて、上記種目から選択して行います。 				

年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業 ・ ビジネス基礎	単位数 2 単位	履修年次 3 年
目 標	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として、 ①実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ②ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③上記の内容をふまえ、必要な基礎的な資質・能力を身につけることを目指す。		
使用教材	【教科書】 ビジネス基礎 (実教出版) 【副教材】 検定問題集		
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決している。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して、自らビジネスについて学ぶ態度及び当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、責任をもって取り組もうとしている。
評価方法	(知識・技能) ・ (思考・判断・表現) 定期考査を元にして行う。 (主体的に学習に取り組む態度) 授業ノート、ワークシート、日々の授業態度を元にして行う。 具体的には日々の授業の取組態度、提出物、考査等をもとに総合的に判断し評価する。		
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	
1 学期	商業の学習とビジネス ビジネスとコミュニケーション コミュニケーション・ビジネスマナー 情報の入手と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業を学ぶ重要性と学び方、ビジネスの概要について理解する。 ・ ビジネスにおける信頼関係の意義と重要性を学ぶ。 ・ ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付ける。 ・ 企業活動における情報の重要性について理解する。 	
2 学期	経済と流通の基礎 さまざまなビジネス 企業活動の基礎 マーケティングの重要性・資金調達 財務諸表の役割・企業活動と税・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済の仕組みと流通の必要性について理解する。 ・ ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学ぶ。 ・ 企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。 	
3 学期	ビジネスと売買取引 売買取引の手順・代金決済 ビジネス計算 ビジネス計算の意義と応用 身近な地域のビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学ぶ。 ・ 契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につける。 ・ ビジネス計算に関する知識や技術を学ぶ。 ・ さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学ぶ。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業の学習はビジネスの学習であり、このビジネス基礎はビジネスの全体像を学ぶ科目です。そのため、卒業後の進路もふまえてビジネス計算やワープロの基礎についても学習します。 ・ 基礎的な知識や技術、心構えを身につけ、進路を考えるうえで、この学習を役立ててください。 ・ 授業の進捗状況で学習内容が入れ替わるなどの変更もあります。 		